

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第32回放送の概要 (2011年4月23日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) (CM) 石川遼です。峰山真彩 (まい) ちゃんは8歳の元気な女の子。でも輸血をしなければ生きてこれなかった。峰山真彩です。献血してくれてありがとうございます。僕らも命の助けになれる。20歳の献血。Love in Action。日本赤十字社。

(CM) 「7つ 8つ 9つ どう といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

1. オープニング

みなさんお花見に行かれましたか。タロウは2回、わだかんさんは一人で手酌酒、なかちゃんは家の近くの公園の桜をながめるだけでした。さくらさんは仙台の親戚が東日本大震災で被災し、年配の人は3月11日で時間が止まってしまっており、「ああ桜の時期になっているんだ」という感覚になっている。ゲストに予定していた坂牛八州さんがご病気のためゲスト出演出来ないため次は放送スタッフによるわいわいトークに変更致します。

2. みんなでわいわい

今は東日本大震災の話抜きでは進められない。まずわだかんさんから話をしてもらいます。我々の放送も3年目を迎えたが、22年度はたくさんの高校生をゲストに迎えお話をできるようになった結果、若い人とのしゃべり方がわかってきた。昨日たまたま福島から来られた高校を卒業したばかりの女性と話をした。これからの1年間を有効に過ごすため何かをやりたい、神戸に来れば何かヒントがあると思いやってきたとのことであった。震災後16年も経つと長田区役所の人でも随分変わり話をする人が少なくなったきたので役所に代わって話をしてきた。彼女は福島から新宿、新宿から神戸までバスを乗り継いでやってきた。3日間神戸に滞在し、たかとり教会の資料室、FMわいわいなども訪問したが何をしたらいいのかわからず、どこにヒントがあるのか、どんなことをしたか、何が必要か、自分ひとりで何ができるのかといったことを1時間半ほど話をした。阪神大震災の時、わだかんさんはボランティアと呼ばれるのが嫌で手弁当と言う表現が好きであった。彼女はそのような感覚を持った人と思った。福島は郷土愛が強く土地から離れたがらない。彼女の福島の家は助かったが、彼女自身郷土のために何かをしたいと思っていた。わだかんさんからは自分の経験からまず健康であることが大事で、当時は51歳でまだ若くやる気も十分であったが、現在我々と同じ67歳の人に力仕事をやれとか再起しなさいとか言っても困ってしまわれる。少しの若さと働く場所が必要であるが、東日本は今は何もない状態にあ

るので大変である。わだかんさんの場合は大阪に仕事場があり、1つ工場がつぶれてももう一つ健全な工場があるというように誰かが助けてくれる状況があったことが幸いした。色々話をした結果彼女はヒントを得たようで、神戸（長田）で被災した人の話を東日本に届けるのも自分の役目として出来るのではと考えるようになった。その場合は福島の方へお話に行きますということを伝えた。彼女との話がスムーズにいったのも放送を通じ多くの高校生と話をする機会に恵まれた結果、高校生感覚がわかり、また若い人の方がナイーブで手助けしたいという感覚が強いこともあり、放送の経験が彼女に良いヒントを与えることが出来た。

さくらさんは仙台のお孫さんとの電話で、仙台のおばあちゃんの家が海に近かったのでその家が流され、孫が海がすごく大きくなったという表現をしていた。その時色んなものが積み上がっていたかと聞いたところ、「あったけど」と言っただけでそれ以上の話をしなかった。従兄弟たちの家もなくなっていたので小学4年生の孫にとっては言いたくないことだと強く感じた。

タロウからは地震発生後「想定外」という言葉をよく聞くことについて、津波そのものは1000年に一度と言われるくらいの大きさで、想定外と言っても問題ない非常に大きなものであった。原発事故についても想定外と言う人がいるが、想定外ではなく「検討対象外」にしていたのではという人がいる。設計時に津波をどの程度考慮していたかということについては、地震による建物強度は深く検討されているが、津波に対しては基準を含め十分ではなかったように感じている。原子力は大量の放射能を内蔵しているため万一環境に出た場合の影響範囲は非常に大きい。いかなる想定外事象に対しても最後の砦である冷却機能を確保する手段が用意されていなければならなかったと思うが、今まではそこまで考えが及ばなかったといえる。

想定外と言う話をする事自体がおかしく、海のすぐ傍で本当にその程度のガードしかされていなかったとすると唖然とする（わだかんさん）。福島第一のすぐ近くの福島第二発電所や北にある女川発電所は同様の事故は起こしていない。「想定外」という言葉を責任逃れのために使っているように思える。

なかちゃんから「癒し、励まし」について、阪神・淡路大震災の時、その年のNHK紅白歌合戦でクールファイブが出演予定であったが、「そして神戸」を歌うのをやめるとい話が流れた。被災地の人はその歌を望んでいるとのアピールをした結果「そして神戸」が歌われ、被災者は歌を聞いて泣いたということがあった。歌により癒され勇気付けられたことが起きた。歌にはこのように癒し、励ましの力がある。歌は今の心情になじみのあるものを聴くとだんだん元気が出てくる。心情を5段階に分けると、第1段階はストレス、挫折、絶望、第2段階は混乱を脱して耐え忍び慰めあう、第3段階は気持ちが落ち着いてくると昔はよかったという子供帰り、望郷、第4段階は周りの人に対し愛を求める、最終段階はしっかりしてくるので反発し、積極化がでてくるので立ち直り、希望の船出にとりかかる。たとえば最終段階の曲としてはお年寄りには「異国の丘」、団塊の世代には「そして神戸」若い世代には「負けないで」、その他では「宇宙戦艦ヤマト」「夜明けの歌」、「丘を越えて」「青い山脈」「喜びも悲しみも幾年月」「愛燦燦」などがある。

放送が3年目を迎えたがこの1年は若い人にたくさん出演頂いた。反省としては22年度は16回放送したがすべて兵庫高校とOB関係者になってしまったことである。これからは兵庫高校以外の学校の方に出演頂き視野を広げていきたい。また2年間の放送を通じゆかりのコミュニティも出来つつあると思われるのでこのコミュニティをさらに広げていきたい。ゲストを広げていく場合、FMわいわいの理念である多文化共生を考えていくことが大事である。

3. 来週のゲスト

来月のゲストは神戸中華同文学校を卒業された李さん、何さんにお越しいただきます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com